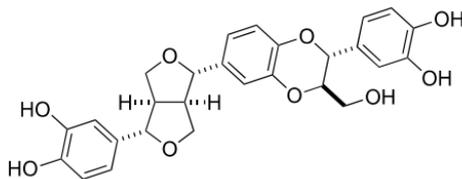


S32-3 ハイブリッドポリフェノールの全合成

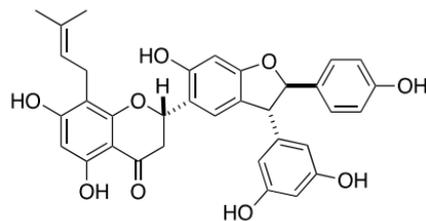
○菅 敏幸¹

¹静岡県大薬

演者は 2005 年に静岡赴任以来、特産の緑茶のカテキンやミカンのフラボンを合成して多くの共同研究に展開してきた。さらに最近では独自の方法論に基づくハイブリッド型のポリフェノールの合成も行っている。反応性に富む電子豊富な芳香環を有するポリフェノール類には、生合成経路の異なる化合物が融合した化合物ハイブリッド化合物が多く存在する。これらは古くから知られている化合物もあるが、多くは構造の確定や生物活性評価が行われていない。また、希少かつ不安定なため天然からアッセイへの十分量の供給は困難な状況にある。そのため、力量ある合成による化合物供給が必要となるが、その全合成の報告例は単量体と比較して極めて少ないのが現状である。そのため、複雑な構造を有するハイブリッド型ポリフェノールの合成にかかる期待は大きい、解決すべき困難な問題が多く存在する。本講演では、独自のキノンメチド中間体を経由するフラン環とピラン環構築を鍵とするハイブリッド天然物のプリンセピン (1) と CH 挿入反応によるジヒドロベンゾフラン環構築を鍵とするソホラフラバノン H (2) の全合成を紹介する。



プリンセピン (1)



ソホラフラバノン H (2)